

武蔵野大学大学院通信教育部環境学研究科

小論文過去問題（環境マネジメント専攻）

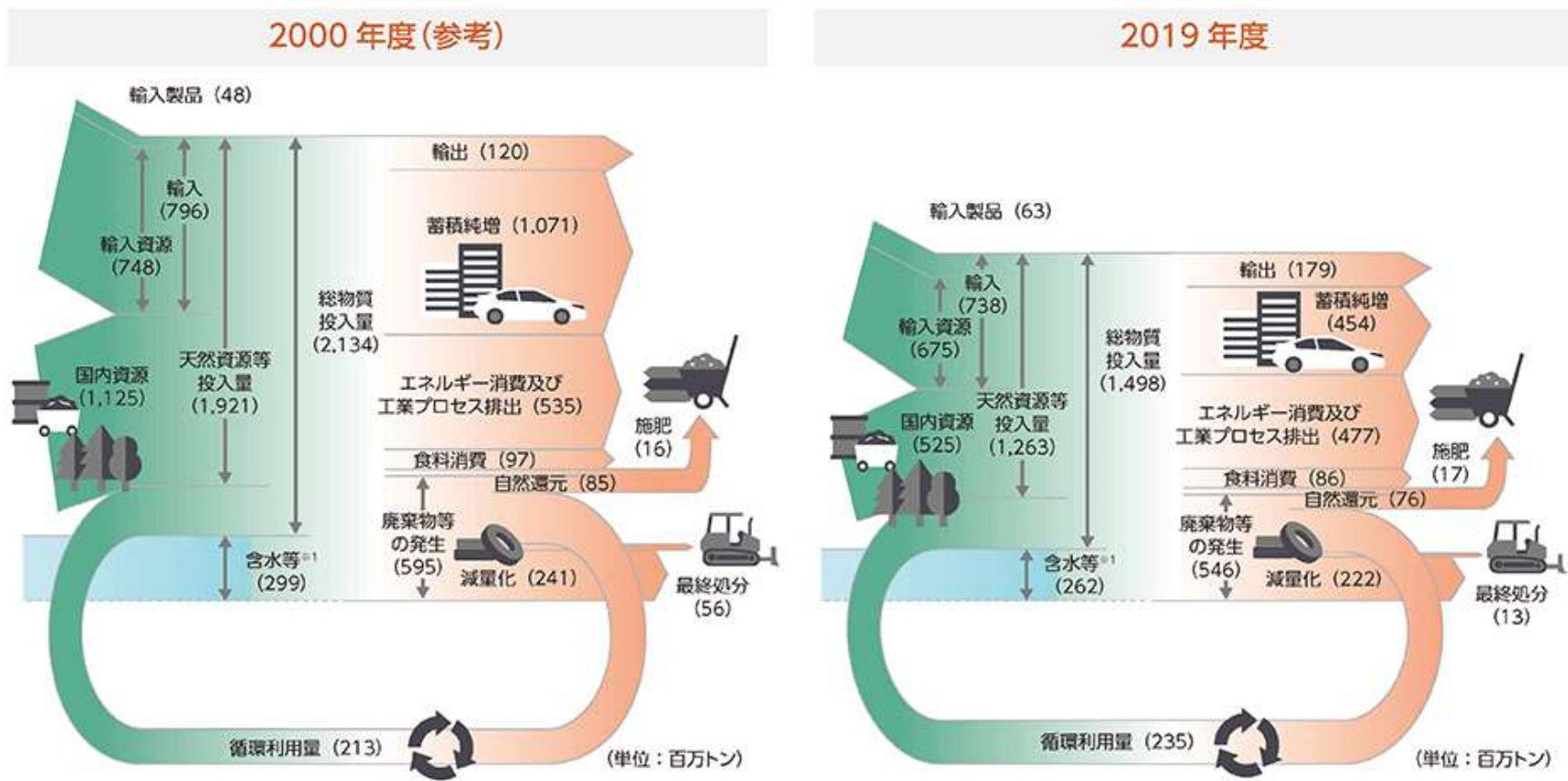
令和5年度 第1回

以下の二つの問題のうちいずれかを選び、800字以内で回答しなさい。

1. わが国の直近の物質フローは別紙図のようである（出所：「令和4年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」）。①2019年度の状況を見てあなた自身が関心を持ったこと、②さらに資源循環・廃棄物削減を進める上で、誰がどのような取り組みを進めていくべきと考えるか、これら2点について具体例を取り上げながら、あなた自身の考えを述べなさい。

2. Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development（持続可能な開発のための2030アジェンダ：2015年9月25日第70回国連総会で採択）の67節（民間企業活動）では、「民間企業の活動・投資・イノベーションは、生産性及び包摂的な経済成長と雇用創出を生み出していく上での重要な鍵である。我々は、小企業から協同組合、多国籍企業までを包含する民間セクターの多様性を認める。我々は、こうした民間セクターに対し、持続可能な開発における課題解決のための創造性とイノベーションを発揮することを求める。「ビジネスと人権に関する指導原則と国際労働機関の労働基準」、「児童の権利条約」及び主要な多国間環境関連協定等の締約国において、これらの取り決めに従い労働者の権利や環境、保健基準を遵守しつつ、ダイナミックかつ十分に機能する民間セクターの活動を促進する。」と述べられています。SDGsの達成に向け、民間企業が果たすべき役割、企業への効果と影響等について、具体的な事例を挙げながらあなたの考えを述べなさい。

図 3-1-1 我が国における物質フロー (2019年度)



注: 含水等: 廃棄物等の含水等 (汚泥、家畜ふん尿、し尿、廃酸、廃アルカリ) 及び経済活動に伴う土砂等の随伴投入 (鉱業、建設業、上水道業の汚泥及び鉱業の鉱さい)。
資料: 環境省

出所) 「令和4年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」
第2部>第3章 循環型社会の形成>第1節 廃棄物等の発生、循環的な利用及び処分の現状

令和5年度 第2回

以下の二つの問題のうちいずれかを選び、800字以内で回答しなさい。

1.地球温暖化や気候変動問題を受け、ゼロカーボン（脱炭素）、再生可能エネルギー100などの取り組みを進める企業や地方公共団体等が増えています。それについて、①あなたの知っている事例、②どの程度の効果を及ぼすか、③取り組むことによる影響、④進める上での課題など、具体的事例を説明しつつ、あなたの考えを述べなさい。

2.環境省の「第5次環境基本計画」における重点施策として、別紙のとおり6つの重点戦略が挙げられています。このなかであなたの身近にある事例から関心ある（否定的な意見でも良い）事項を取り上げ、①取り上げた事項、②取り上げた理由、③それに対して誰がどのような取り組みを進めていくべきか、出来るだけ具体的に述べなさい。

- 分野横断的な**6つの重点戦略を設定**。
- **パートナーシップ**の下、環境・経済・社会の**統合的向上を具体化**。
- **経済社会システム、ライフスタイル、技術等あらゆる観点からイノベーションを創出**。

6つの重点戦略

① 持続可能な生産と消費を実現する グリーンな**経済システム**の構築

- ESG投資、グリーンボンド等の普及・拡大
- 税制全体のグリーン化の推進
- サービサイジング、シェアリング・エコノミー
- 再エネ水素、水素サプライチェーン
- 都市鉱山の活用 等



洋上風力発電施設
(H28環境白書より)

② **国土**のストックとしての価値の向上

- 気候変動への適応も含めた強靱な社会づくり
- 生態系を活用した防災・減災 (Eco-DRR)
- 森林環境税の活用も含めた森林整備・保全
- コンパクトシティ・小さな拠点+再エネ・省エネ
- マイクロプラを含めた海洋ごみ対策 等



土砂崩壊防備保安林
(環境省HPより)

③ **地域資源**を活用した持続可能な**地域づくり**

- 地域における「人づくり」
- 地域における環境金融の拡大
- 地域資源・エネルギーを活かした収支改善
- 国立公園を軸とした地方創生
- 都市も関与した森・里・川・海の保全再生・利用
- 都市と農山漁村の共生・対流 等



バイオマス発電所
(H29環境白書より)

④ **健康で心豊かな暮らし**の実現

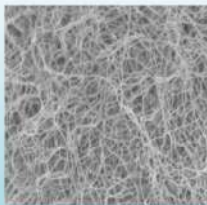
- 持続可能な消費行動への転換
(倫理的消費、COOL CHOICEなど)
- 食品ロスの削減、廃棄物の適正処理の推進
- 低炭素で健康な住まいの普及
- テレワークなど働き方改革+CO2・資源の削減
- 地方移住・二地域居住の推進+森・里・川・海の管理
- 良好な生活環境の保全 等



森里川海のつながり
(環境省HPより)

⑤ 持続可能性を支える**技術**の開発・普及

- 福島イノベーション・コースト構想→脱炭素化を牽引
(再エネ由来水素、浮体式洋上風力等)
- 自動運転、ドローン等の活用による「物流革命」
- バイオマス由来の 化成品創出
(セルロースナノファイバー等)
- AI等の活用による生産最適化 等



セルロースナノファイバー
(H29環境白書より)

⑥ **国際貢献**による我が国のリーダーシップの発揮と **戦略的パートナーシップ**の構築

- 環境インフラの輸出
- 適応プラットフォームを通じた適応支援
- 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」シリーズ
- 「課題解決先進国」として海外における
「持続可能な社会」の構築支援 等



水銀に関する水俣条約
第1回締約国会議
に出席した環境大臣

令和5年度 第3回

次の二つの問題のうちいずれかを選び、800字程度で答えなさい。

1. 地球温暖化や気候変動問題を受け、ゼロカーボン（脱炭素）、再生可能エネルギー100などの取り組みを進める企業や地方公共団体等が増えています。それについて、①あなたの知っている事例、②どの程度の効果を及ぼすか、③取り組むことによる影響、④進める上での課題など、具体的事例を説明しつつ、あなたの考えを述べなさい。

2. 環境省「第5次環境基本計画」のなかで、地域循環共生圏という考え方が打ち出されています。各地域がその特性を生かした強みを発揮することにより、地域資源を活かし自立・分散型の社会を形成する、地域の特性に応じて補完し支え合うといったことが狙いです。地域循環共生圏のコンセプトに対して、それが考えられた背景、取り組むことによる効果、取り組む上での課題などに対して、あなたの知っていること、あなたの考え等を述べなさい。（具体的な事例を取り上げて説明しても良い）

令和4年度 第1回

以下の二つの問題のうちいずれかを選び、800字以内で回答してください。

(1)先日開催された第26回気候変動枠組み条約締約国会議等(COP26等)では、気候変動の安定化を目指すため、議長国である英国は、「石炭火力の段階的廃止」との合意を目指しましたが、すべての国の賛同を得るに至らず、「石炭火力の段階的削減」という合意で最終的に決着しました。あなたはこの結果をどう評価しますか。あなた自身の考えを踏まえてその評価の理由を含めて記述してください。

(2)プラスチックごみの海洋汚染による海洋生物への影響が世界的な問題となつていますが、この問題にとどまらず、プラスチックの使用は、持続可能な社会づくりの観点から多くの懸念点があります。その問題を含め、あなた自身は、このプラスチック問題をどのように理解し、それに対して、今後どのように対応していくべきと考えるか記述してください。

令和4年度 第2回

次の二つの問題のうちどちらかを選び、800字程度で答えなさい。

①国連が提唱したSDGs(持続可能な発展目標)を実践していこうという動きが内外で広がっています。一方で、気候変動問題や貧困・格差の問題などは、いまだに解決の目途が立っているとは言えない状況です。あなたはこのような状況を人類は解決できると思いますか。あるいは困難だと思いますか。あなたの考えを述べ、その理由をできるだけ具体的にあげて論じてください。

②日本の江戸時代は、鎖国政策により、エネルギーや資源の利用が限られ、結果的に持続可能性の高い生産や消費のシステムが社会に広がったと言われています。このような歴史は、現在の持続可能な社会の構築において、参考になると思いますか。あるいはあまり参考にはならないと思いますか。あなたの考えを述べ、その理由をできるだけ具体的にあげて論じてください。

令和4年度 第3回

次の二つの問題のうちいずれかを選び、800字程度で答えなさい。

(1)あなたが理解している「持続可能な社会」とはどのような社会であるかできるだけ具体的に述べてください。その上で、現在の日本、あるいは世界がそのような方向に進んでいると考えるか否かについて述べ、さらに、もし進んでいない、あるいは進んでいても十分ではないと考えた場合、今後とるべき対応策についてあなたの考えを述べてください。

(2)現在、IT技術、バイオ技術、エネルギー技術など多くの分野で急速な技術革新が進んでおり、生産、消費、廃棄などに大きな影響を及ぼしています。これらの技術が「持続可能な社会」の進展に資する可能性と、逆に支障をもたらす可能性の双方について、あなたの関心の高い技術をいくつかとりあげて記述し、今後の望ましい技術の進展のありかたについて論じてください。

令和3年度 第1回

次の問題のうち、どちらかを選び、800字程度で答えなさい。

(1) 持続可能な発展に関し、地球環境の保全と経済成長が両立する「グリーン成長は可能」だとする意見と、地球環境保全と経済成長は両立せず「グリーン成長は不可能」だという意見があります。あなたの考え方に近い意見を選び、なぜそう考えるかその理由を字数の範囲で記述してください。

(2) 現代の子供たちは昔の子供たちに比べて自然離れが進んでいるという調査結果があります。このことについて、①あなた自身の認識、②自然離れが進む原因、③自然離れがもたらす環境保全への影響とその対策、について字数の範囲で記述してください。

令和3年度 第2回

次の問題のいずれかを選び、800字以内で記述しなさい。

(1) 日本のある会社では、「地球環境の保全」と「経済的価値向上」を同時実現することを目指す「同軸型環境経営」という考え方を提唱し実践してきています。これを実現するためにはどのような対策が重要と考えられるか、できるだけ具体的に述べてください。

(2) 持続可能な発展のためには、今後、基本的な資源・エネルギーの使用は、非再生可能資源から再生可能資源に転換していくべき、という考え方があります。それは実現可能と考えるか不可能と考えるか。理由を付してあなたの考えを述べてください。

令和3年度 第3回

次の二つの問題のうち、どちらかを選び800字程度で記述しなさい。

1. 気候変動問題は、人類の生存基盤をも揺るがす、現在最も深刻な地球環境問題とされています。気候変動問題がここまで深刻化した理由について、あなたの考えを述べてください

2. 国連の持続可能な発展目標（SDGs）はじめ、持続可能な社会を目指そうという機運が高まっています。その観点から、今後あなたのライフスタイルの中で最も変えたいと思っていることを出来るだけ具体的に述べてください。